

2022年度次年度ステップアップ研修生選抜講習会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和4年度 第70回大阪高等学校バスケットボール新人大会 中央大会					
●日程	令和5年2月4日 (土)					
●会場	堺市立大浜体育館					
●講師	近畿IR部会インストラクター、大阪府審判委員会インストラクター					
●スケジュール	令和5年2月4日 (土)					
	各自会場集合 10:40 PGC 11:25 コートイン、コートインスペクション 11:40 ゲーム開始					
●担当試合	令和5年2月5日 (日) 11:40～					
	対戦カード	関西大学第一高校		VS	大阪桐蔭高校	
	主審	CC	太田 令奈 氏	U1	國守 幹彦 氏	U2 永井 琉太
	講師／主任	黒岡 和哲 氏				
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・試合を通して、決断力が足りない ・ゲーム内のコンタクトに対してリーガルか、イリーガルか判定をするメカニクスについて、Lのスイッチのタイミングや、キックバックをするケースであるのか検証をする ・1QにLからAOSをFコールしたケースについて、タイミングやプレゼン共にgoodcallであった 				
自己の感想	<p>本ゲームの反省点は、1試合を通して判定に一貫性を持って取り組むことができなかつたところとす。チームの特徴として、前半からオールコートプレスで仕掛け、コンタクトが多いゲームとなりましたが、シリンダーやハンドチェックなどファールとして取り上げても良い事象が多くあったと考えます。他にも明らかなトラベリングやバイオレーションなど積極的に判定を入れていく必要があったと考えます。またHCの振る舞いに対してワーニング入れるシーンがありましたが、ワーニング後も繰り返し行われていたためTFを入れても良いケースであったと考えます。そうしたところでは、決断力というのがまだまだ足りず、今後の課題であると実感しました。</p> <p>講評でも頂きましたが、LやCににいる際のポジションアジャストやLのスイッチのタイミングなど3POのメカでも多くの課題があると実感しました。また今後の課題として、立ち姿やプレゼンテーション、笛の音など見せ方を工夫できるよう意識していきます。</p> <p>最後ではありますが、本講習会開催にあたってご指導を賜りました近畿IR部会・大阪府審判委員会インストラクターの皆様へ心より御礼申し上げます。また本大会に参加させて下さいました、大阪府審判委員会の皆様へ心より御礼申し上げます。大会準備やTOを行なって下さいました大阪高体連の皆様、並びにチーム関係者の皆様へ心より感謝申し上げます。</p>					

次年度ステップアップ研修会選抜講習会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第70回 大阪高等学校バスケットボール新人大会 中央大会		
●日程	令和5年2月4日 (土)		
●会場	堺市立大浜体育館		
●講師	黒岡 和哲様 茅野 修司様 細見 竜太様 北村 仁様 湯浅 剛様 近江 伸郎様 古島 彩代様 河崎 亮介様		
●スケジュール	令和5年2月4日 (土) 10:00 実技開始		
●担当試合	令和4年8月28日 (日) 10:00 ~		
	対戦カード	薫英 VS 大商学園	
	主審	CC 木村 裕也様 U1	高木 穰様 U2 山口 翔
	講師/主任	茅野 修司様	
	講評	1試合通して、プレゼンテーションは、若々しくてよかったです。今後も継続していく。クロック管理に意識していくべき。映像に残る時代なので、修正する意識を高めると良いと思う。24秒クロックなどでの処置ミスは、誰かが気づいて修正すべきであった。判定に関しては、もっと積極的に判定していてもよいのではないか。ディフェンスのよりによってオフェンスが倒れてしまうケースなどは、1Qの最初からテンポセットで鳴らしていくことで、落ち着いたゲームを目指していく必要がある。誰がプライマリーエリア、アングルをもっているのかの意識が必要。	
自己の感想	このゲームは課題しか残らないゲームであった。クロックの管理など、意識することができていないときに何か起こる、それを見逃さないように、常に意識しておく必要があると感じた。プライマリーの理解、アングルの取り方の見直しが必要であると思った。ゲームでこぞという事象があった場合、違うプライマリーが笛を鳴らすことが必要である。ゲームとしては、点差が開くゲームであったが、ゲーム序盤のテンポセットなど、ディフェンスの寄りの整理などをすれば、また違った展開になっていたのではないかと感じた。最後になりましたが、このコロナ渦の中で研修会を企画運営、また開催していただきました、大阪府バスケットボール協会審判委員会の皆様に感謝申し上げます。有難う御座いました。		

2022年度次年度ステップアップ研修生選抜講習会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第70回 大阪高等学校バスケットボール新人大会 中央大会		
●日程	令和5年2月4日 (土)		
●会場	堺市立大浜体育館		
●講師	黒岡 和哲 様、茅野 修司 様 細見 竜太 様、北村 仁 様		
●スケジュール	令和5年2月4日 (土)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・各自割当に合わせて集合 ・PGC ・実技 ・IRによるミーティング ・各自解散 		
●担当試合	令和5年2月4日 (土) 13:20 ~		
	対戦カード	阪南大学高等学校	VS 関西大学第一高等学校
	主審	CC 川崎 洋次郎	U1 平出 圭佑 U2 増田 和真
	IR	茅野 修司 様	
	講評	<p>ファウル後のディレクションはルーズボールファウルやリバウンドファウルの時のようにどちらのファウルかが分かりにくい時のみ。速攻のケースでパートナーのローテーションに気づくのが遅れて後追いのアングルでコール(ブロッキング)したものについて、メカが崩れていなければ先回りして手のコンタクトとして判定できた。正しいPOCで判定するための1つの要素としてメカニクスがあることを覚えておいて欲しい。センターからセカンダリーでコールした、空中に飛んだプレイヤーの足元に入って起こした危険なコンタクトについて、UFが過らなかつたか？異質で危険なコンタクト。結果的にNFにしてもUFにしてもクレーで話した上で、クレーとしての判定を示して欲しかった場面だった。マージナルコールが課題。今の状態から抜け出す1つのポイントが「マージナル」になってくる。</p>	
自己の感想	<p>ファウル後のディレクションなど知らなかった情報を知ることができた。どんどんいろんなことが変化してきているので、自分から積極的に新しい情報を集めたいといけないなと改めて感じた。自身としてはマージナルが課題。マージナルをコールしてしまう要因としてメカニクスやプレイの理解、ルールの理解、ノイズなどいろいろな要因があると思う。それらを分析してこの課題を克服できるよう地道に取り組んで参ります。</p>		

第70回大阪高等学校バスケットボール新人大会 中央大会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第70回 大阪高等学校バスケットボール新人大会 中央大会						
●日程	令和5年1月28日 (土)		～	令和5年2月5日 (日)			
●会場	大浜体育館						
●講師	茅野 修司 様、黒岡 和哲 様、細見 竜太 様、北村 仁 様 近江 伸郎 様、古島 彩代 様、河崎 亮介 様、太田 令菜 様、湯浅 剛 様						
●スケジュール	令和5年2月4日 (土)						
	開会式なし 各自、割り当て時間に合わせて集合 10:00 会場入り 12:50 PGC 13:20 Tip Off 17:00 終了						
●担当試合	令和5年2月4日 (土) 13:20 ～						
	対戦カード	関西大学第一高等学校 VS 阪南大学高等学校					
	審判	CC	川崎 洋 様	U1	平出 圭 様	U2	増田 知真
	講師／主任	茅野 修司 様					
	講評	・プレーコーリングについては、goodコールが多かったが、Fコールにディレクションをしている。 ・2Q 6:00頃に自分のプライマリーエリア内で起こったFに対してコールできなかった。また、UF相当ともとれたのでクレーで集まって話してもよかった。 ・TOトラブルの時に選手を一度ベンチに戻してもよかった。最終的になにでトラブルになったのか周りにわかりづらかったので両チームキャプテンを集めて説明してもよかったのではないかと。					
	自己の感想	自分の中でも、ゲームにマッチしていないなと思ったコールはなかったと感じました。ただ、映像を見返すと、取り上げてもよかったファールもあったので、ポジションアジャストやメカの部分での改善点はあったと思います。Fコール時のディレクションは、今後癖付かないように改善していきたいです。ローテーションに関しては、試合前のPGCで、外国人である阪南大の4番のところをしっかりとマークしておこうとクレー内で共有していたので、リードはボールの位置関係と阪南大4番を中心に開始していました。3Qにローテーションを開始した時にゴールへのドライブが始まり、バックペダルを使ってよかったシーンはありました。クロック管理に関しては、ショットクロックが何回かリセットされてしまっていたり、リセットされていなかったシーンがありましたが、修正には至りませんでした。結果的に、ゲームに影響はしていませんが、いつでも修正できるようにしておく構えは今後のゲームの運営に必要なスキルであり、磨かないといけないスキルでもあったと感じました。 今大会で初めて、高校の中央大会に参加させていただき、会場の雰囲気などとても刺激をいただきました。大会を通して、さまざまな発見や経験をし、さらなる次のレベルに向けて精進していきたいと感じました。 最後ではありますが、今大会開催にあたって大会準備やTOを行っていただきました大阪高体連の皆様、並びにチーム関係者の皆様、また今大会に参加させていただく機会を下さった関係各位の皆様、講評していただきました茅野修司様に心より御礼申し上げます。					

2022年度次年度ステップアップ研修生選抜講習会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第70回 大阪高等学校バスケットボール新人大会 中央大会		
●日程	令和5年2月4日 (土)		
●会場	堺市立大浜体育館		
●講師	黒岡和哲 様 茅野修司 様 細見竜太 様 北村仁 様		
●スケジュール	令和5年2月4日 (土)		
	割当に合わせて各自集合 14:00 プレゲームカンファレンス 15:00 Tipp off		
●担当試合	令和5年2月4日 (土) 15:00 ~		
	対戦カード	大阪桐蔭	VS 金光藤蔭
	主審	cc 堂國 氏	U1U2 森山氏、貝崎
	講師／主任	黒岡和哲 様	
	講評	1Qでのテンポセットが不十分であった。ディフェンスの手の使い、体の寄せ方について整理が必要。オフェンスの意図したプレー、RSBQに影響があると確認できればシンプルにファウルコールをすべき。ボールに長く目が当たることでスムーズなローテーションが出来ていない。リードローテーション中にショットが起きたとしても、すぐにキックバックすれば大きくメカニクスが崩れることはなかった。また、クールの動きも確認する。ヴァイオレーションに関して、成立したように見えたのか、成立したのが確認できたのかの違いを理解すること。表示物管理は徹底すること。丁寧に判定しようとする姿勢は上がった。	
自己の感想	1Qにおいて大阪桐蔭11番に対するディフェンスのイリーガルな手の使いに関して整理ができておらず、終始金光藤蔭はストレッチハンドを続けていた。1Qでテンポセットができていれば手の使い方のメッセージが伝わりよりクリーンになっていた。また、ファウル、ヴァイオレーションの判定基準があいまいで、どのようなゲームコントロールがしたいのかがわからなかった。講評にある通りオフェンスの意図、RSBQに影響があればシンプルにコールする必要があった。表示物管理はまだまだ甘いところがあったので改善していきたい。どのような場面でも決断力が必要であると感じた。間違いや失敗を恐れて決断できない場面があった。決断した後に間違いや失敗があっても、修正し改善してレフリースキルを上げていく重要性を学んだ。今後の活動に生かして生きたい。今回このような貴重な機会を頂きました、大阪府バスケットボール協会審判委員会の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。		

2022 年度 次年度 ステップアップ 研修生 選抜 講習会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和4年度 第70回大阪高等学校バスケットボール新人大会 中央大会						
●日程	令和5年2月4日 (土)						
●会場	堺市立大浜体育館						
●講師	黒岡 和哲様、茅野 修司様、細見 竜太様、北村 仁様、湯浅 剛様、						
●スケジュール	令和5年2月4日 (土)						
	13:30 控え室集合 14:10 PGC開始 14:45 コートイン 15:00 試合開始						
●担当試合	令和5年2月4日 (土)						
	対戦カード	大阪桐蔭			VS		金光藤蔭
	クレー	CC	堂國 和昭 氏	U1	森山 裕介	U2	貝崎 壘斗 氏
	講師／主任	黒岡 和哲 様					
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・試合に向けた準備がどこまでできていたかを見直した方がよい。どのようなプレーが起こるのか、それに対してクレーでどのように協力し対応していくのかなど、事前の準備を大切にしなければいけない。 ・ボールウォッチャーになってしまっていることがある。 ・トランジションのあと、早く次のセットアップポジションに入ることで、余計な判定を減らすことができる。 ・プレゼンテーションはしっかりとできていた 					
	自己の感想	<p>プレーコーリングについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予測しているプレーに対しては判定できていたものの、予測できていなかったダブルチームやスクリーンなどについて、プレーが視野に入っていないで判定しきれていないケースがあった。 ・私がリードの際、縦のドライブに対しての判定基準が他のクレーとずれていた。縦のドライブに対してDFの横からのプレッシャーについては、影響が出る度合いを予測し判定につなげる必要があった。 <p>メカニック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5番エリアでの判定について、ファーストとかセカンドかを明確にし、セカンドから判定するにしても明らかなレイトコールになるよう工夫しなければいけない。 ・センターの際、センターサイドのセンターライン近くのプレーに対しては、早めに上がって確認する必要があった。 <p>プレゼンテーションについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前に比べ、走り方やレポーターなどの改善を意識したことが、成果として発揮できた。 <p>TO管理等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1Qで、14秒リセットする場面でリセットができておらず、24秒バイオレーションのブザーがなってしまい、ベンチからアピールがあった。これは、きっちりタイマー確認ができていなかったのが原因であった。 <p>全体を通して</p> <p>メカ・プレゼン・ポジションアジャストなど、対応する力は高まった。しかし、それらの情報を自分の中で処理しきれていない状況がある。もっと経験を積み、ゲームフローをつかみながらコートで起きているプレーに対して適格かつシンプルに判定できるように成長しなければいけないと感じた。</p>					

2022年度次年度ステップアップ研修生選抜講習会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和4年度 第70回大阪高等学校バスケットボール新人大会 中央大会						
●日程	令和5年2月4日 (土)						
●会場	堺市立大浜体育館						
●講師	黒岡 和哲様、茅野 修司様、細見 竜太様、湯浅 剛様、北村 仁様						
●スケジュール	令和5年2月4日 (土)						
	10:50～ PGC 11:40～ ゲーム開始						
●担当試合	令和5年2月4日 (土) 11:40 ～						
	対戦カード	大阪体育大学浪商高等学校			VS	大阪府立摂津高等学校	
	審判	CC	森 照代 氏	U1	辻 良平 氏	U2	中川 緋菜
	講師／主任	北村 仁 様					湯浅 剛様
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・プライマリーエリア内で起こるプレーを正しく判定できていた。 ・クレーンの中でEOQ・EOGのゲームクロック管理が曖昧であった。攻守が変わるたびに、クレーン同士で確認をする。 ・センターポジションの取り方は工夫が必要。(ベーシック／ハイセンター／ローセンターの取り方) ・CtoCの走り方の工夫 ・観客や指導者、選手にも納得いくPOCであること。 					
自己の感想	<p>今回の講習会で、いかに自分自身が3POのメカニクスの理解が不十分であることと、ポジションアジャストが身につけていないことが実感した。各ポジションのベーシックな動きを1試合守って動けることが今後の課題だと感じた。今回は、ポジションアジャストを意識して取り組んでみたが、自分がどのマッチアップを捉えているのか明確ではなかった時間や次のプレーを予測して位置取りができていない時間があった。プレーに対して細かいポジションアジャストをしていき、1試合通して良い判定ができるようにする。また、講評でもありましたが、POCの正確性が必要。誰が誰のどこに、どのように当たっているか(POCの確認)→その結果どうなったかプレイの理解を得ること、選手、指導者とのコミュニケーションがとれる1つなので、今後重点的に意識して取り組んでいく必要がある。</p> <p>最後になりましたが、このコロナ過の中で講習会を企画運営、また開催していただきました大阪府バスケットボール協会審判委員会の皆様、大会を運営されておりました大阪府高体連の皆様には深く感謝申し上げます。</p>						

2022年度 次年度ステップアップ研修生選抜講習会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和4年度 第70回大阪高等学校バスケットボール新人大会 中央大会						
●日程	令和5年2月4日 (土)						
●会場	堺市立大浜体育館						
●講師	黒岡 和哲 様 茅野 修司 様 細見 竜太 様 北村 仁 様						
●スケジュール	令和5年2月4日 (土)						
	各自会場入り						
	10:40 PGC						
	11:30 コートイン						
	11:40 TipOff						
●担当試合	令和5年2月4日 (土) 11:40 ~						
	対戦カード	関西大学第一高等学校		V S	大阪桐蔭高等学校		
	主審	CC	太田 氏	U1	國守	U2	永井 氏
	講師/主任	黒岡 和哲 様					
	講評	<p>試合が落ち着いていなかった。その原因として決断力を発揮するべき場面で発揮できていなかった。決断するためにもポジションアジャストが必要。</p> <p>Callしていないものに関して本当にCallしなくてよかったのかを見直す必要がある。</p> <p>トラベリングに関しては、明らかなものをしっかりと吹かなければならない。全体として判定されていない。</p> <p>4Qの大阪桐蔭の異論表現に対しては会場中に聞こえるくらいだったのでTFをCallするべきであった。</p>					
	自己の感想	<p>白のレイトミートなどのトラベリングを取り上げきれなかった。明らかなものをしっかりと判定を入れていくべきであった。</p> <p>Callしていないものに関してなぜCallしなかったのか、その原因をしっかりと理解して改善する必要がある。</p> <p>4Qの青のHCの異論表現に対しては、ベンチサイドのCであった私がしっかりとTFをCallするべきであった。TFもNFと同じようにCallする準備をしなければならない。</p> <p>最後になりましたが、ご多用の中このような機会をいただき、大会運営をしていただいた関係者の皆様並びに本講習会を開催していただきました審判委員会の皆様方に感謝申し上げます。</p>					

2022年度次年度ステップアップ研修生選抜講習会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第70回大阪高等学校バスケットボール新人大会 中央大会							
●日程	令和5年2月4日 (土)							
●会場	堺市立大浜体育館							
●講師	北村 仁 様、湯浅 剛 様							
●スケジュール	令和5年2月4日 (土)							
	10:40 PGC 11:40 ゲーム開始							
●担当試合	令和5年2月4日 (土) 11:40 ~							
	対戦カード	大体大浪商高校			VS	摂津高校		
		CC	森 照代 氏	U1	辻	U2	中川 緋菜 氏	
	講師/主任	北村 仁 様、湯浅 剛 様						
	講評	<p>・トラベリングのコールがゲームにマッチしていたかどうかを振り返る必要がある。誰がみても明らかなもの以外も取り上げていたのであれば、メッセージとして伝わりづらい。</p> <p>・ポジションアジャストについて、トレイルの位置取りが高い。不要なクロスステップを入れることで自らアングルを失いにいつまっているケースがいくつもあった。</p> <p>・POCについて、1つのプレイに対して複数のイリーガルなコンタクトがあった場合(手なのか、体なのか)は、より明らかな方を取り上げることで、そのコールをゲームにマッチさせることができる。そこを間違えると選手、コーチ、観客にメッセージとして伝わりにくくなる。また、POCを正しくとらえてコールすることでコミュニケーションにつなげることができる。</p> <p>・EOQ、EOGにおけるクロックをもつクルーが誰なのかの確認をその都度した方がいい。</p> <p>・「このゲームをどういうゲームにしていきたいのか」「お客さんにはどう見えているか」という視点を持ってレフリーすること。</p>						
自己の感想	<p>・テンポセットの意識を持ってトラベリングをコールしていたつもりだったが、映像で振り返ってみても判定の精度を高める必要性を感じた。</p> <p>・ショットクロックバイオレーションや、バックパスなど自分のプライマリでのバイオレーションはしっかりと判定できるようにしていきたい。</p> <p>・課題としていたチェックイン、チェックアウトの意識、プライマリ、セカンダリの意識はこのゲームでは少し改善できていたように感じる。</p> <p>・POCについての課題は以前から継続的に指摘されていることなので、今後さらに映像による振り返ったりプレイの理解を深めたりすることで特に改善していきたい。</p> <p>・レフリーの視点のみにとらわれず、今後は選手、コーチの視点や観客の視点も意識しながらレフリーできるようにしていきたい。</p>							